

【ミニトマト】

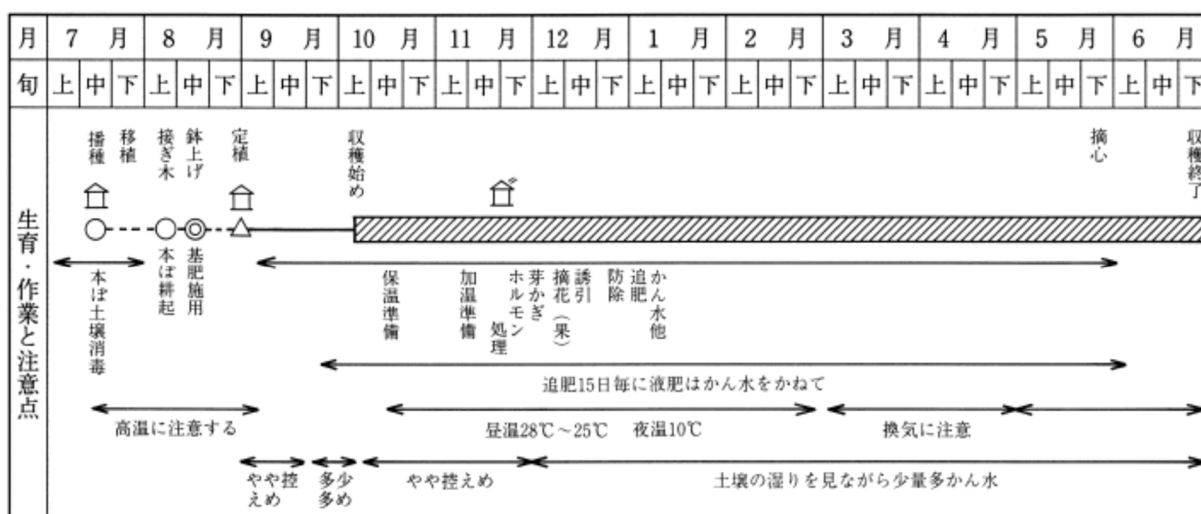
1) 現状

(1) 生育適応性

○土耕栽培の場合、地下水位の上昇する地帯では、裂果等品質に影響が大きいため、排水の良い圃場を選ぶ。

	生育適温	最低限界温度
地上部	(昼間) 20～25℃	10℃
	(夜間) 8～13℃	
地下部	15～18℃	13℃(15℃以下で機能低下)
開花・開葯	15℃以上	開花日最高気温 15℃以上
受粉	20～30℃	20℃(花粉の発芽最低温度)
果実肥大	20～25℃	10℃
枯死限界		5℃
		-2(枯死)

(2) 現在の主要な作型



(3) 暖房用燃料費の標準的消費量

燃油量 (重油) : 約 12,470ℓ (最低温度設定 12℃)

(4) 経営費に占める暖房費の割合 (重油単価 80円/ℓの場合)

経営費目	金額(円)	備考
変動費 (種苗費・光熱費等)	3,575,000	光熱費のうち 重油費: 998,000円
固定費 (減価償却費等)	1,170,000	
経営費合計	4,745,000	経営費のうち 重油費割合: 21%

(5) 重油高騰の収益への影響

上記(4)の経営費において、光熱費及び諸材料費が重油と同様に上昇することを想定して試算。

重油単価 (円/ℓ)	重油費 (円/10a)	経費全体 (円/10a)	収 益 (円/10a)
50	624,000	4,240,500	2,959,500
60	748,000	4,408,000	2,792,000
70	873,000	4,576,500	2,623,500
80	998,000	4,745,000	2,455,000
90	1,122,000	4,912,500	2,287,500
100	1,247,000	5,081,000	2,119,000
110	1,372,000	5,249,500	1,950,500
120	1,496,000	5,417,000	1,783,000

2) 対策

(1) 施設の改善

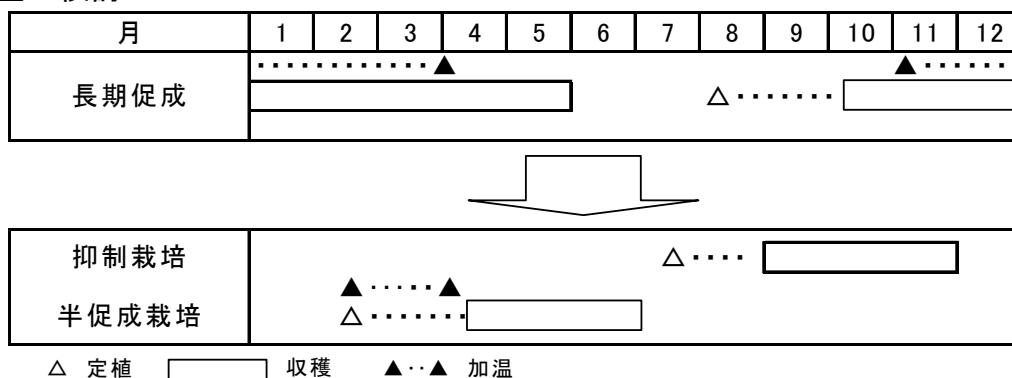
加温機の点検整備や施設の内張り等の多層被覆については、共通技術を参照する。

(2) 適正な温度管理(12月～1月の例)

○ 4段サーモの変温管理ができる場合は、次表に基づき温度管理を行う。



(3) 作型の検討



・燃油が多量に必要な越冬長期栽培(8月～翌年6月)から補助加温程度で済む、抑制栽培(7月～11月)と半促成栽培(2月～6月)を組合せた作型へ変更。